

NIEM等 海外調査報告

経済産業省 CIO補佐官
平本健二

調査概要

■ 調査期間

- 2013年2月12日-14日

■ 意見交換先

- 情報共有環境プログラムマネージャ・オフィス (PMISE)
- 国土安全保障省 (DHS)
- 厚生労働省 (HHS)
- 司法省 (DOJ)
- 海軍 (Navy)
- 一般サービス庁 (GSA)
- OMG
- 他 (W3Cメンバ等の専門家)

示唆1：NIEMの位置づけ

- NIEMは情報共有環境の基盤である。
 - 基本原則は以下の通りである。（PMISE）
 - 情報は国の資産である
 - 情報共有と安全確保を実現するには、リスクマネジメントも共有する必要がある
 - 情報共有が意思決定に影響する
 - 自治体も含め全国に1000のシステムがあり、それを繋ぐ必要があった。その基盤として取り組みを進めてきた。（DOJ）
- NIEMは省内ITインフラの基盤である。
 - 省内に2400のシステムがある中でインタオペラビリティを確保することが重要であった。（HHS）
 - 省のITに関する全体ポートフォリオの中で、その一つとしてNIEMは位置づけられている。（HHS）
 - ITが業務を変えることが重要であり、高品質なサービスをするための新しい方法の基盤としてもNIEMがある。（HHS）
 - EAの中でNIEMが重要な役割を担っている。（元HUD（帰国後ヒアリング））

示唆2：推進のポイント

- 目的を明確にする。
 - ドメイン整備でも、システム構築でも目的を明確にすることが重要である。(HHS)
- 既存のシステムを変えない。
 - 重要な点は、システムを変更せずに導入可能なことである。(DOJ)
 - 開始するときのハードルを下げるということが重要である。(Navy)
- 小さく始めて成果を出す。
 - 最初に300のデータセットを作った。その後、省内に展開していった。そのために、省内にサポートとヘルプデスクを作った。(DOJ)
- コンセンサスを作っていくことが重要である。
 - 強制的に入れさせるのは難しいので、コンセンサスを作っていくことが重要である。(DOJ)
 - コンセンサスが得られた領域では、法律内にNIEMの活用を記述している。(HHS)
- オープンデータとNIEMの領域は区別した方が良い。
 - トランザクションと公開データは違う。(PMISE)
 - しかしお互いの情報に接点はある。地理情報など、近い情報もある。(PMISE)

示唆3：技術

■ ツールが重要である。

- 構造化されたデータを使うことが重要である。(HHS)
- NIEM-UMLプロファイルは期待されているが、まだ実装されていない(PMISE)
- NIEM-UMLプロファイルのツールはいろいろある。簡単にサブセットが作成できる。(有識者)
- ツールを使うことでNDL等の文法を考えないで良くなる。(PMISE)

■ データ項目の設定には、目的の明確化が重要である。

- 何が自分に必要かを考えて、サブセットを作っていくことが重要である。(DOJ)
- 何を交換するのか目的が重要である、データ項目がありすぎて、利用者をディスカレッジしてしまうことがある。(DOJ)

■ セキュリティは、ドメイン毎に設定する。

- コモン・セキュリティ・アトリビュートというものを使い、情報のセキュリティを確保している。(Navy)
- セキュリティ・アトリビュートは、業務によって違うので、コア領域ではなくドメインのほうにある。(Navy)

示唆4：NIEMのメリット

- きちんと意義され、フォーマット化されたフォーマットを使うことで情報共有できる。(HHS)
- システム開発において、共通の製品や機能を使えるので、コスト削減になる。(HHS)
- 相互運用性の高いデータが国中で使われることでリスクが低減できる。(HHS)
- 正確で利用可能なデータを迅速に公開できるので公衆衛生が改善する。(HHS)
- webを通じて正確な情報にアクセスできるのでアクセスが増加する。(HHS)
- パートナーの持っている情報を正規化して構造化して情報を入手するスピードが高まった。新しいデータにアクセスしたり、高度なサービスができるようになった。(Navy)

示唆5：推進体制

- ガバナンス・ストラクチャが重要である。
 - ステアリングコミッティのように、ガバナンス・ストラクチャで全体を俯瞰することで民主的なプロセスを確保していく。(PMISE)
- CIOによる推進が重要である。
 - CIOレベルでの合意や連携が必要である。実務者レベルの連携はその元で実施する。(DOJ)
- コミュニティが重要である。
 - 新しいコミュニティを作っていくには、多くの関係者を巻き込み、民主的に進めていく。(PMISE)
 - NIEMの最も重要なパートはコミュニティである。(PMISE)
 - みんながボランティアベースで参加している。(DOJ)
- 産業界との協力が重要
 - この分野は産業界と協力して推進していくことが重要である。(PMISE)
- 人材
 - 業務と技術の両方がわかっている人が求められる(DOJ)
 - 適性のある人は大変であり、各地でイノベティブな取り組みをしている人にボランティアに参加してもらっている(DOJ)
- 国際協力
 - 日本政府が一枚岩でやってくれるのは歓迎である。ノルウェイが興味を持つなど国際的に興味を持たれている。(PMISE)

参考：オープンデータ等の意見交換

- Data.govと国連で意見交換（2 / 15）
- オープンガバメントやオープンデータに関して、日本も積極的に取り組むべきである。
 - オープンガバメントパートナーシップには50カ国以上が参加しているが、日本は参加していない。（GSA）
 - データカタログサイトを各国は公開しているが、日本にはない。（GSA）
 - 経済産業省のdatametiのカタログサイトは理解した。政府全体のデータカタログサイトができれば教えてほしい。（GSA）
- プレゼンを見て、日本に進んだ取り組みがあることはわかった。
 - 個別のベストプラクティスは興味深いので、資料をよく読み勉強したい。（GSA）
 - 他の国にも展開できるのではないか。これからも情報交換していきたい。（国連）
 - 日本の電子政府に関する取り組みは、英語の資料が少なく把握しにくい。（国連）